

# オンリーワン幼稚園 研修 報告書

大和大学

## 1. 目的

オンリーワン幼稚園ではどのような教育が行われているのかを知り、今後のコーチングの学びを深め、将来の道へつなげる。

## 2. 結果

・アドラー心理学を取り入れて教育を行っているが、そのまま使ってしまうとオーストラリアの方にはまってしまうため、日本で取り組むものとして工夫を交えながら使っている。

→「勇気づけの心理学」、自分も相手も幸せになる心理学

・心育（ここいく）＝心を育てる、道徳

→独自の道徳プリント教材を用いて心育を行っている

・歌や日本の文化を日本語だけではなく、英語でも確認している。

→英語で伝える喜びから将来は英語で日本の伝統や良さを伝える子どもを育てる

・真っ白の時間（瞑想の時間）：嫌なことも楽しいことも何も考えない、心を落ち着かせる。

→始める前に正座をして姿勢を整える。その際毎回必ず腰骨を立てることを確認する。また子ども一人一人の腰骨を確認しながら話しかける。1日に少なくとも一度は子どもと話す時間を取るため。

## 3. 考察

今回の研修を通して特に驚いたことは、先生が一度も子どもに対して否定をしなかったということだ。今までの私の経験や、現場に足を運ぶ中でもほとんどこのような環境はなかった。否定をしないからといって子どもは何事も許されるというわけではなく、子どもの可能性がどんどん引き出されていると感じ取れた。

子どもの同じ行動に対しても、周りの環境（ここでは特に人的環境）次第で子どもの認識も変わってくる。

オンリーワン幼稚舎では短所を長所に見る、そして「自分は一人の人間として生きているんだ」と感じられるよう、その子どものためと思うことをするようにしていた。実際に現場で子どもたちの様子を見ていても子どもの無限の可能性を改めて感じる事ができた。それと共に先生の与える子どもへの影響も大きい。またアドラー心理学をベースに様々な活動が行われているが、大切なのは心・体・知育のバランスだ。私の母園でも知育の面では似たようなことに取り組んでいたが明らかに違ったのは三つのバランス、そしてこの活動をする意味や、その言葉の意味を子どもたちに伝えているかであった。何をするにしても、相手が子どもであれ大人であれ、やる意味を本人が理解していなければ活動の意味がなくなってしまう。この意味づけを行うことで、子どもの興味を引き出し、やらされているのではなく、やりたい！という興味を引き出すことができる。この引き出し方も工夫が必要だ。

また一つの場面設定から感じる自分の心の色をカードで選ぶ活動では、感じ方が違う子どもがいるのはもちろん、同じ気持ちでも選ぶ色は真逆の子どももいた。初めてこの活動を知ったが、よく考えれば嬉しいからこの色、悲しいからあの色だとは決まっていない。しかし大人になるにつれてイメージや固定概念に縛られやすいが、感じ方は人それぞれ違って良いのだからその感性を自分自身も、そして将来子どもの感性も大切に守っていけるような先生を目指す。

#### 4. 今後に向けて

今回の研修を通して素直にこんな先生になりたいと感じた。普段から意識できることは多くあるが、まずは人の良いところに目がつくようにする。目がつくだけでなく、気づいたことをどんどん相手に伝える。言葉で相手に伝えることで自分自身もより成長できると思うからだ。

またアドラー心理学についてはまだ知らないこともあるが、松田先生をはじめとするゼミの仲間と共に理解を深め合っていきたい。

そして私の夢でもある「子どもの可能性を引き出す先生になる」のより具体的なイメージを掴んだ。今後も小学校でのボランティアや現場での経験、そして日常から様々なものに触れ日本だけでなく海外にも足を運ぶ。そこで得たも

のを自分のものにし活かすことで子どもたちと一緒に成長していきたい。

今回はオンリーワン幼稚舎の研修としてお世話になり、ありがとうございました。私自身このタイミングで志道先生や子どもたちと出会えて本当に良かったと思っています。この学びを必ず残りの学生生活、そして将来に活かしていきます。本当にありがとうございました。

2017/02/03